

## 辞書作りの現場から その②

# 『全訳 漢辞海』

辞書出版部 国語辞書第三編集室

『全訳 漢辞海』編集長

武田 京



漢字によって表現されたことば

——漢語そのものを学習するための

漢字辞典『全訳 漢辞海』

『全訳 漢辞海』は、二〇〇〇年に初版が刊行されました。すでに長澤規矩也先生の『新明解漢和辞典』など漢和辞典出版の長い歴史をもつ小社として満を持して世に問うた新しい漢和辞典でしたが、誠に幸いなことに、読者のみなさまに好評をもって受け入れていただくことができ、必ずしも好調とは言えない出版環境のなか、二〇〇六年には『第二版』を、そして、

二〇一一年には『第三版』を刊行することができました。漢和辞典という堅実ではあるものの特に注目を集めることも少ないと思われる辞典で、このような短期間に版を重ねることができたというのも、『漢辞海』の先進的な編集方針が幅広い読者のみなさまの御支持につながったからにはかならないと、担当編集部として誠に

ありがたく受け止めております。振り返ってみれば、入社早々に計画中の純新刊漢和辞典の担当を命ぜられ、編集担当として『漢辞海』に携わるようになってから、早くも二十年が過ぎました。それまで漢和辞典はもとより辞書編集の経験もない新人編集部員ではありましたが、そのような「素人」であったことがかえって良かった

のかもしれない。専門的な教育を受けていれば、つまらぬ先入観が編集方針の具体化のうえでも障害になったことに相違ありません。しかし、漢和辞典に対して白紙の状態で臨んだ新人編集担当は、先生方の先進的な編集方針をそのまま素晴らしいものとして受け止め、それを読者のみなさまにわかりやすいかたちで御提示することに、自分の使命を見出しました。正に『漢辞海』とともに歩んだ二十年でした。

何も無いところからすべて手作りで作り上げた辞典

『漢辞海』は純新刊の辞典です。

中国学研究の第一人者である戸川芳郎（とがわよしお）先生に御監修として御指導を賜りつつ、同じく気鋭の研究者である佐藤進先生と濱口富士雄先生の編者お二人を中心に、多くの先生方やご協力者の英知と努力を結集して編集されました。

編集に当たっては、従来の漢和辞典がそうであったような漢字を単に和訓に置き換えて理解しようとするのではなく、あくまで漢語として漢字を捉え、的確な例文を掲げて、実際の文脈にそって語義を読解することを編集方針の柱としました。そのためには、古漢語を品詞別に分類し、文法を踏まえた解説を施し、これに訓も合わせて示したうえで、用例には書き下し文を



『漢和大字典』(右)と『全訳 漢辞海』(左)

添えて、現代日本語で全訳を施すこととしました。これだけで、従来の漢和辞典とは一線を画す漢和辞典であるということがわかりただけかと思いません。

必然的に、従来の漢和辞典では参考になるところがありませんので、中国における最新研究をまず第一に踏まえながら、収録語数―親字一万強、熟語五万語以上のすべてを新たに書き起こすことが必要でした。何度となく編集会議を開催し、編集方針を練り込みながら、それに基づいて、収録する親字・熟語の選定を行い、執筆協力をしていただける先生方へ御依頼し、正に一から原稿を揃えていきました。既存の漢和辞典を換骨奪胎すれば出来る上がる原稿ではな

く、先生方も相当に御苦心を重ねられたものと思います。

そのような次第で、編集開始当初は数年後の刊行を意図していたものの、原稿の執筆には大変な時間を要することとなり、刊行日程も度々の延期を余儀なくされました。

一方、長期に及ぶ編集期間のなかでは、貴重な参考文献である中国の『漢語大詞典』全十三巻が完結し、また台湾の中央研究院をはじめとする多くの漢籍データベースも徐々に完備されるようになり、編集環境も格段の進歩を遂げていったことはむしろ大きな収穫でもありました。原典確認など、以前であれば相当な困難と労力・時間を要したと思われるものほとんどが、現在では自分のデスクのうえでできるようになっていきます。そのような時代の変化も最大限に活用しながら、ついに二〇〇〇年、刊行のときを迎えることとなったのです。

刊行当初、編者の先生方はじめ編集部もその編集方針には確信をもってはいたものの、果たしてそれが読者の御支持を得るに至るのか、予断を許さないところでしたが、その後の読者の御支持と順調な発展は、既に述べた通りで、誠に幸いであったと日々嘖みしめております。

『漢辞海』は、当初の編集方針の段階から、漢文読解のための古漢語辞典としての側面と同時に、現代日本における漢和辞典として、常用

漢字表をはじめ、人名用漢字表、表外漢字字体表、JISコードなどの漢字コードや名付けをする際の名乗りなどにも対応しています。『第二版』では、人名用漢字の大幅拡充や表外漢字字体表を踏まえた改訂を施し、二〇一一年春の『第三版』では、前年末に二十九年ぶりに改定された「常用漢字表」の改訂を待たうえて、

最速の刊行を実現しました。現在お手元にお届けしております『第三版』では、その成果として、新しい常用漢字には「★」印を付して、一目瞭然でわかるようにお示ししています。

そのように、漢和辞典に求められる多くの側面を常に意識し、もつとも良い形で読者のみなさまにお届けするということを常に意識して、今日も編集に当たっています。

### 読者のみなさまとともに

日本で最初の近代的な漢和辞典『漢和大字典』が小社から刊行されたのは一九〇三(明治38)年のことでした。百年の時を経て、『全訳漢辞海』のような画期的な漢和辞典を刊行することができたというのも、小社であるからこそできたことであり、そして何より、読者のみなさまの長年にわたる御支持があったからこそその賜物であると実感しています。

今後とも読者のみなさまとともに、より良い辞書を生み出し、育てていきたいと思っております。